

令和5年6月15日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6903

令和5年度病害虫発生予報第3号について

今後発生が予想される水稲、麦類、大豆、果樹、野菜の病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 6月下旬～7月上旬

2 予報内容

水 稲

紋枯病の発生は**多**と予想される。前年に発生したほ場は、多発する可能性がある。防除は薬剤によって散布適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。

斑点米カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで農道、畦畔および遊休地等の除草を実施する。

フタオビコヤガの発生は**やや多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

大 豆

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。ウイルス病の発生を防止するため、アブラムシの発生を認めた場合は直ちに防除を実施する。

果 樹

ナシ黒星病、リンゴ斑点落葉病、リンゴ褐斑病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

アブラムシ類、ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野 菜

スイカつる枯病の発生は**やや多**と予想される。発病初期の防除を徹底し、ほ場の排水に努める。

カボチャ疫病の発生は**やや多**と予想される。ほ場の排水に努める。

ハスモンヨトウの発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底し、施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する

ネギハモグリバエの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類、アザミウマ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
6～8月は農薬危害防止運動期間です。